

りその生活史、卵、幼虫の形態について述べられた貴重な報文がある(1980)。

参考文献

文中論文表題のみ示したものの発表誌名を記しておく。

G. J. Arrow, 1913. Ann. Mag. Nat. Hist. 8, xii, p.396.

後閑暢夫, 1980. ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister について。

日本応用動物昆虫学会誌 24(2):112-112.

新島善直・木下栄次郎, 1923. 北海道帝国大学農学部演習林研究報告 Vol. 2. No.2

新島善直・楠 菊夫・富本 豊, 1917. 東北大農科大演習林研究報告第 5号.

岡本半次郎, 1924. Bull. Agr. Exp. St. Chosen Vol. 1, No.2.

Reitter, Edm. 1903. Verh. Naturforsch Ver. Brünn, 41, PP.28-158.

Sawada, H., 1941. Nippon no Kochu, Vol. 4, No.1:42-58, pl. II-V.

Schoenfeldt, H. v., 1887. Jahrb. d. nass. Ver. Naturhunde 40:31-204.

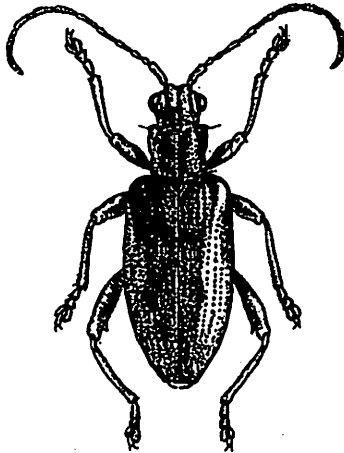
C. O. Waterhouse, 1875. Trans. ent. Soc. London, Part. 1:71-116, pl. III.

兵庫県下でのキンイロネクイハムシの分布

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 6 4)

高 橋 寿 郎

キンイロネクイハムシ *Donacia japonica* Chūjō et Goecke は京都の深泥池 (Midoro-ga-ike) で岸井 尚, 中根猛彦両博士によって採集された標本に基づいて中條道夫博士と Goecke 氏との共著によって記載をされた美しいネクイハムシである (1956)。原記載の終りの所で素木得一博士が京都で採集された標本に基づいてヨーロッパ, シベリアに分布して日本からは初めての記録種であるとされた *Donacia aquatica* Linné は本種のことであるとされている (1934)。さらに後藤光男氏が図説された *Donacia* sp. もこの種であると記しておられる (1955)。



Donacia (Donacia) japonica
Chûjû et Goecke,

(AKITU Vol.5, No.3.P.61,1956より)

本種の日本における分布状況は“アトラス・日本のネクイハムシ” (1985) によると“本州の北端部から北九州まで知られているが四国からは未知で、西南日本からはほとんど知られない。”とある。かなり広く分布しているようだが実際にはそれ程多く見られるハムシではないようだ(産地では個体数が多いといった傾向があり、産地が限定されている種のようなのである)。日本以外は旧満州東部、朝鮮に分布している。最近の“宮城県のハムシ” (1992) でも1例しか報告されていない。

さて兵庫県下では、このハムシはどのような状況なのだろうか。宝塚市大原野に多産することは前記“アトラス・日本のネクイハムシ”に詳しく紹介されている。この場所と同じであると思われるとして森 和夫氏も多くいることを報ぜられた(1991)。さらに、この記録に用いられた標本を採集された翌年にも同じ場所が多くいることを再確認されると同時にその内の2♂2♀をわざわざ御恵送下さった(標本は現在筆者保管)。この地は兵庫県下で最も本種を多く産する地のようなのである。

それ以外には、三木市大村から 1ex. 採集出来たと永幡喜之氏から連絡を頂いた。八木 剛氏は加東郡社町から記録された。筆者は、かつて氷ノ山山麓大久保にて採集した以外、県下で全く採集出来ていなかった。

1992年5月、美囊郡吉川町で調査の機会に恵まれた。このあたりは割と池があるので、ひよっとすると注意して見たが池の状況はかなり汚れており、ゴミ捨場に近い状況であった。部分的にはジュンサイがあり、それにはそこそこのネクイハムシ *Donacia lenzi* Schonfeldt を見ることが出来たが、その内の1つの池畔で同行の蜂谷幸雄氏がキンイロネクイハムシの1♀を網にされた。たった1頭しかいないとはおかしいと、かなり詳しく他の池をも含めて調べて見たのであるが、ネクイハムシのみでキンイロネクイハムシはとうとうこの1♀のみであった(標本は筆者保管)。

おそらく播州平野にもこの種の分布地はあることだと思われる。

一応現在までの県下の記録を全部次に記しておくことにする。

尚この種の形態、生態、生活史それ等は塚本桂一氏等の報文(1960)並びに“アトラス・日本のネクイハムシ”にも詳しく紹介されており、産地は限定されてはいるが、そこではわりといる種のようなのである。

〈兵庫県下のキンイロネクイハムシの記録地〉

宝塚市大原野(北方の池) alt. 200m, 多数〔野尻湖昆虫グループ, 1981, 1985. 細井, 1987〕. 下佐曾利〔10♂, 8♀, 6-V-1990, 12♂, 8♀, 12-V-1990, 7♂, 5♀, 20-V-1990, 森, 1991〕(2♂, 2♀, 27-V-1991, K. Mori leg.). 三木市大村〔lex., 2-V-1987, Y. Nagahata leg.〕. 美囊郡吉川町(1♀, 21-V-1992, Y. Hachitani leg.). 加東郡杜町畑〔八木, 1991. データ無し〕. 養父郡氷ノ山山麓大久保 alt. 700m, (8♂, 4♀, 24-VIII-1958. T. Takahashi leg.).

尚余談ではあるが, この吉川地域はネクイハムシは非常に多く見ることが出来るが, それに混じって今回もイネネクイハムシ *Donacia provosti* Fairmaire 1♂ (21-V-1992) を採集出来ているので併せて報告しておく(この件, 本誌 Vol.16, No.2, 1988も参照下さい).

参 考 文 献

本文作製にあたり参考としたものゝみ.

M. Chūjō, 1934. Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire(VII).

Trans. Nat. Hist. Formosa 24(135):530-531.

M. Chūjō & H. Goecke, 1956. Contributio to the Fauna of Chrysomelidae (Coleoptera) in Japan(II). Akitu 5(3):60-62, fig.

M. Chūjō & S. Kimoto, 1961. Systematic catalog of Japanese Chrysomelidae.

Pac. Ins. 3(1):121.

後藤光男, 1955. 原色 日本昆虫図鑑(上). p.125, pl.46, F.1(保育社)

細井孝昭, 1986. 大成功!ネクイハムシの観察会. うんころがし(野尻湖昆虫グループ連絡誌) No. 23:6.

保谷忠良・金澤 理・佐々木元幸, 1992. 宮城県のハムシ(宮城県仙台第二高等学校) p.24-25.

S. Kimoto, 1964. The Chrysomelidae of Japan and the Ryuhu Islands I.

Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13(1):115

木元新作, 1984. 原色日本甲虫図鑑(IV). pl. 29, f.13, p.151.

森 和夫, 1991. 宝塚市西谷地区の昆虫数種について. きべりはむし 19(1):21-23.

野尻湖昆虫グループ, 1985. アトラス・日本のネクイハムシ(大阪市立自然史博物館).

高橋寿郎, 1974. 中国山脈東端の昆虫相.

東中国山地自然環境調査報告：222.

塚本珪一・岸井 尚・小山 貢，1960. キンイロネクイハムシに関する2・3の知見. あきつ 9(1): 17-21.

八木 剛，1991. ネクイハムシ類の産卵習性及び卵形態について. Donacist (4):9-14.

猪名川町周辺のツシمامツボシタママムシ

森 和 夫

ツシمامツボシタママムシ *Chrysobothris samurai* OBENBERGER は、初夏の頃にクリやナラ、カシ類の枯枝や伐採木等にも集まるが、産地が限定され、個体数も多くないようである。今回、筆者は、下記のように猪名川町周辺で、本種を採集することができたので報告する。

〈採集データ〉

①大阪府能勢町^{さいが}才の^{かみ}神峠 (alt. 410m, 三草山の西中腹で猪名川町との境から400m程の所)

19-VI-1988, 2 ♀

②兵庫県猪名川町猪淵の南西 (alt. 190m, 宝塚市切畑との境界付近)

8-VI-1991, 1 ♀

③兵庫県猪名川町^{すどうしんてん}杉生新田 (alt. 450m)

9-VI-1991, 10 ♂ 5 ♀

15-VI-1991, 2 ♂ 4 ♀

ツシمامツボシタママムシは、以前は、対島特産種と考えられていたそうであるが、最近では九州や本州に産することが知られている。当地の近くでは、岡山県の北部山地帯に産することが知られ (岡山県の昆虫：1978年，倉敷昆虫館発行)，また、奈良市春日山や大阪府豊能町で採集された話を聞いたことがあった。従って、兵庫県内にも当然産するものと考えられるが、筆者は情報量が少なく、確かめられなかった。また、猪名川町から能勢地方にかけての昆虫相は、仲田元亮氏の「能勢の昆虫」(1982年)によくまとめられているが、当書にもツシمامツボシタママムシは、報告されていない。

なお、本種には、6紋型と4紋型が知られており、産地によってその割合が異なるとのことである